

第 3 5 回料金審査専門会合における指摘事項への回答

2019年2月18日

東京電力パワーグリッド株式会社

1. 効率化に向けた目標設定 . . . P3
2. 他社の優良事例を自発的に取り入れていくための対応状況等 . . . P4
3. 調達計画の公表方針 . . . P6

1. 効率化に向けた目標設定

2019. 1. 15 第35回料金審査専門会合資料5より抜粋

- 当社は、原子力損害賠償・廃炉等支援機構と共同で策定し、2017年5月に主務大臣の認定をいただいた「新々・総合特別事業計画」において、電力の安定供給維持を前提としつつ、2018年度「託送原価2016年度比▲500億円」、2025年度「託送原価2016年度比▲1,500億円」を経営指標として掲げ、全社大で聖域なき改革に取り組んでおります。

【経営効率化に資する主な取組項目】

既存取組

技術業務革新活動

- ・ 社内検討による業務効率化

保全合理化

- ・ 点検・巡視方法の効率化

競争発注

- ・ 複数の取引先の競争により調達価格の低減を促進

取組の深化

カイゼン活動の導入

- ・ 社外の知見を活用した生産性向上の取組

保全高度化

- ・ 技術的知見を踏まえた対象設備の絞り込み

調達改革

- ・ 取引先と共同して調達価格の低減を目指す取組

事業構造改革

カイゼン活動の全面拡大

- ・ 全社、全業務へのカイゼン活動の展開

業務の整流化

- ・ グループ会社を含めた業務効率化

組織集中化

- ・ 組織の統合による管理業務等の合理化

デジタルイゼーション

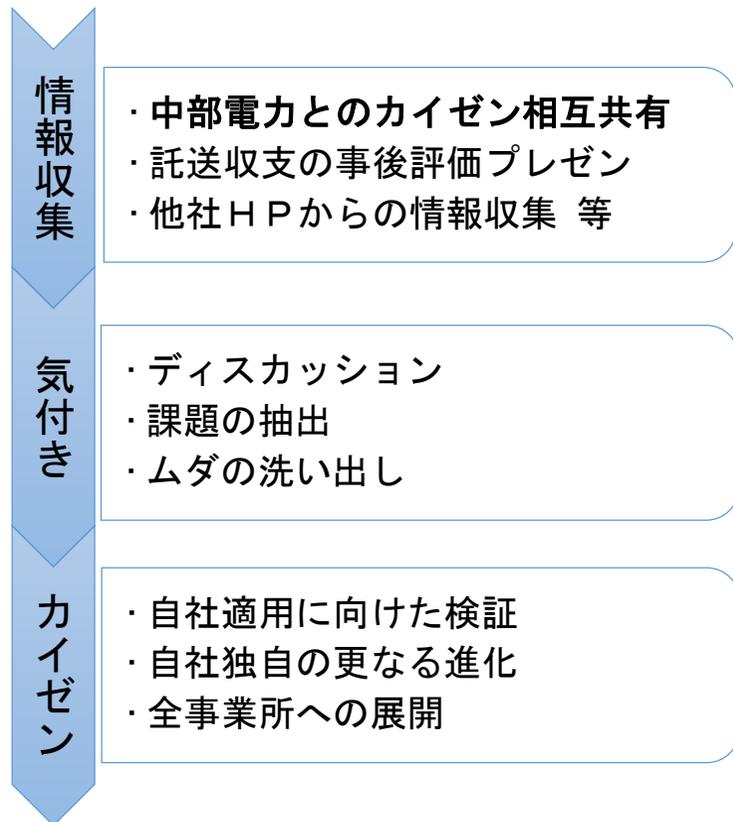
- ・ IoTを活用した業務革新

2025年度原価低減目標：
▲1,500億円(2016年度比)

- 当社は、更なる効率化促進に向け、従前からの電力大会議等における情報収集に加え、2018年7月より、カイゼン活動について他電力会社と定期的な情報共有の場を設けております。
- 個別事例として、保護継電装置※の取替工事における配線の切離作業・接続作業について、中部電力と工法・作業手順を相互共有し、カイゼン箇所を議論することにより、作業段取りの改善等を通じて、作業工数を5,760人分→1,440人分（▲75%）へ短縮いたしました。

◆当社が他社優良事例を取り入れる流れ

◆中部電力との相互カイゼン事例(保護継電装置 取替工事の効率化)



	1日目	2日目	3日目	4日目
カイゼン前	作業内容 制御ケーブル切離作業	作業内容 制御ケーブル接続作業	試験	試験
カイゼン後	8時間		作業内容 切離 接続 試験	

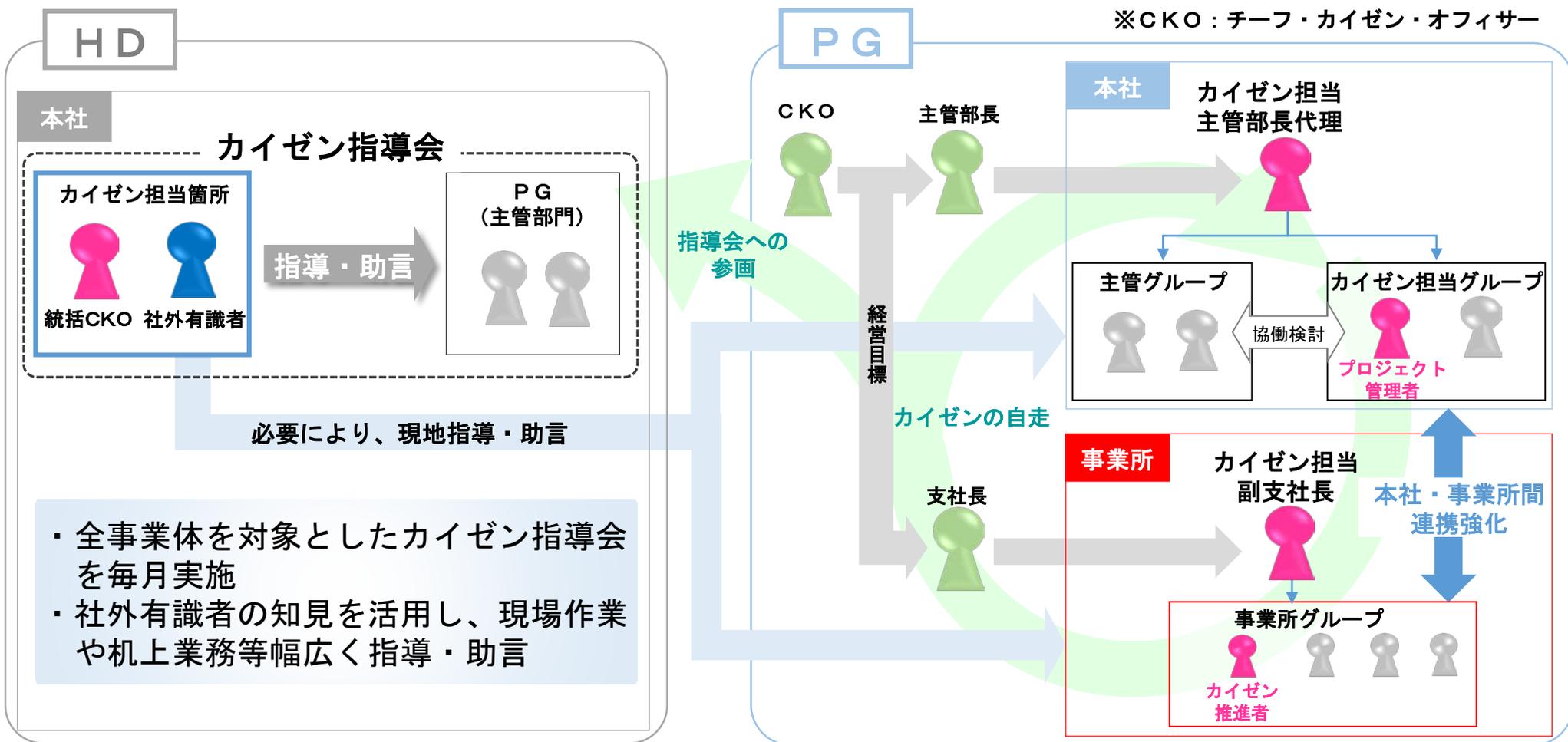
作業段取り等の見直しによる効率化

- 配線(制御ケーブル)の切離作業・接続作業について、中部電力と工法・作業手順を共有し、互いの作業方法を確認する中で、カイゼン箇所を議論することにより、作業段取り見直しによる効率化を実現
- 協働で更なるカイゼンの知恵を見出す活動を継続実施中

※保護継電装置とは、落雷等で電力設備に故障が発生した場合、速やかに事故の拡大防止を図るため、変電所構内に設置された装置

2019. 1. 15 第35回料金審査専門会合資料5より抜粋

- 東京電力グループ全体では、HD本社を中心に、社外有識者による指導・助言「カイゼン指導会」を定期的を実施しております。
- 加えてPGでは、2017年度以降、全事業所においてカイゼン担当、カイゼン推進者等を配置し、本社・事業所の連携を強化の上、PG全社大でカイゼン活動に取り組んでおります。



3. 調達計画の公表方針

- 当社は、毎年4月に当年度調達予定分（早期発注による既契約分は除く）を調達計画としてホームページに公表しており、2018年度は1,400万円以上※¹の案件を対象としております。

※¹ 政府調達協定および国の自主的措置の定める「基準額」及び「邦貨換算額」（外務省）に準拠

- なお、当社は、調達先の技術革新について、見積提出時にVE（バリューエンジニアリング）提案※²等を受け付けている他、契約締結後のVE提案についても積極的に推奨しており、必要に応じて随時、契約内容の変更を実施しております。

※² 要求機能を維持した上でのコスト削減提案

<調達フローイメージ>

